

第7回 第3次丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2023年10月31日（火）

10:00～12:00

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

【出席者委員】（敬称略）

岸本 好量、竹内 真子、森島 斉、細見 博美、植木 光敏、大野 亮祐、坂本 康子、
足立 はるみ、寺内 清、柳瀬 長明、實吉 直、杉岡 秀紀、山口 洋子、池畑 美帆
（14名）

【欠席者委員】（敬称略）

上羽 裕樹、金川 方子（2名）

【事務局】

副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、多田政策係長、足立主事、前川主査
足立大樹主査

配布資料：【資料1】 第3次丹波市総合計画の将来像案について
【資料2】 第3次丹波市総合計画の重要視点について
【資料3】 第3次丹波市総合計画のまちづくりの目標案について

1. 開 会

2. あいさつ

【副市長】 本日は第7回目となる。これまで、将来像や重要視点、まちづくりの目標について協議をお願いしており、本日もこの3項目の決定に向けて議論いただくことになっている。これからの子どもたちに分かりやすく、かつ政策の趣旨を捉えたものを考えていただきたいという、難易度の高いお願いをしているが、前回の案を踏まえて、磨きをかけていただき、より良いものに仕上がれば良いと思う。

【会 長】 前回結論に持っていけなかった事項について、決定していきたい。議会への報告に向けて、本日議論していただく「将来像」「重要視点」「まちづくりの目標案」を決めていきたいと思う。

3. 協議事項

第3次丹波市総合計画の将来像案について【資料1】

・・・会長説明。

【会 長】 副会長からの幸せの視点を将来像に入れていくというご意見を受けて、前回審議会では将来像「まなび ときめく 丹（まごころ）の里～幸せ輝く、みんなの未来へ～」とい

う案になっていた。これまで話し合った皆さんの想いも資料にまとめられている。

皆さんが議論してきたことは、しっかりと反映してつくり上げてきたなかで、最後に微調整を若干させていただきたい。

事例を言うと、朝来市でも「しあわせ」のフレーズを将来像に使われており、平仮名で表現されている。漢字で使っても問題はないが、小学校１年生、２年生の子どもたちが「幸せ」という漢字が書けるかを考えたときどちらの表現が良いか。また、句読点の有無、スペースの位置など、少し気になる点を調整する時間が足りなかったので、今回この話し合いをもって、将来像を確定させてもらいたい。

・・・２グループに分かれ、将来像の「幸せ」を平仮名にする、また副題の句読点は必要かなどについて話し合った。

【Ａグループ】 「幸せ」は平仮名の方が、主題と統一感を合わせる意味で良い。句読点はない方が良い。「幸せ輝く」は、一つのフレーズとして扱うのか、独立（幸せ・輝く）させて表現するのかなどの意見も出た。

【Ｂグループ】 「幸せ」は子どもが読みとれるやさしい印象になる平仮名が良い。「輝く」も平仮名にしたら良いとの意見もあったが、視覚的なインパクトや文字に込められている意味・イメージも大切だという考えがあり、漢字で表現するという結論になった。句読点は、主題と統一し、副題でもスペースを使って文章を区切る。

【会 長】 「幸せ」「輝く」など、子どもたちが分かるように全部を平仮名表記にとの意見もあった。人間は左から右に読むので、そこを平仮名にすることで、全体に統一感を持たせて読みやすくなると思う。

皆さんの意見から「幸せ」は平仮名にして、「輝く」は漢字としたい。句読点は俳句などでは使わないという仕様もあるので、句読点を使用しない方向で総意とさせてもらいたいと思う。「幸せ」と「輝く」の語感については、個人の意見として市民に解釈を委ねて良いと思う。「幸せが輝く」のか「幸せに輝く」と解釈するかは、すべて説明をしきらないでも良いと感じる。それは、どんな議論をしてきてこの将来像になったのかという、興味を持ってもらうきっかけにもなる。審議会の議事録を見ていただいたり、そのようなきっかけになれば良いと思う。本日、配布されている資料の「ちーたんの知りたいな通信」では、将来像の全体の印象を聞く項目がある。市民の方からの様々な意見を聞取っていく。本日は、将来像を「まなび ときめく 丹（まごころ）の里～しあわせ輝く みんなの未来へ～」と決定としたいがどうか。

【委員一同】 同意

第３次丹波市総合計画の重要視点について【資料２】

第３次丹波市総合計画のまちづくりの目標案について【資料３】

・・・事務局説明。

【会 長】 重要視点については、総合計画は難しい言葉が多くなってしまうので、市がどのようなことをしていくか、みんなが分かるような表現に磨き上げをしていかなければならない。まちづくりの目標については、前回の案から時間が足りない部分があったので、議論をお願いしたい。そして、今日初めてなのは、まちづくりの目標の順番を考えてほしい。例えば、将来像は「まなび」から始まるので、子育てや教育、生涯学習が順番の上に来る案になっている。現行計画では、もっと下の順番となっている。他の自治体では、安全・安心のまちづくりが一番上に来ることが多い。順番を付けるというのは、丹波市では、子育てや教育、生涯学習といったところを特出ししていく、メッセージとして前面に出していくという意味を込めることとなる。ただし、この順番は、見る人に対しての順番であって、行政としての政策の重要度・優先順位ではないことは踏まえていただきたい。どの政策が重要なのかということではなく、どの順番に収録していくかということに工夫をしたいという意味である。

・・・ 2グループに分かれて、重点視点、まちづくりの目標について協議をした。

【A グループ】 重要視点について、「人口減少社会への対応・備え」が他の項目と比較して問題として大きすぎないか。丹波市だけでなく、国全体の話となっており、まちづくりの前提となるものとの認識した。「市民・地域・将来世代の幸せの実現」を一番上の順番とすれば、人口減少対策についても含まれると考えられる。

「まちの未来を担う人の育成」については、Aグループとして一貫して言っている主体的、能動的に市民が動くというところをコンセプトに考えると、「人の育成」は外から育てるというイメージになる。子どもも大人も自ら学び育っていくものなので、人が育っていく環境をつくることが大事だということを踏まえて「まちの未来を担う人づくりの環境」という表現の方が良いのではとの意見があった。

「ふるさと丹波市らしさの継承」という、この「丹波市らしさ」というのが一体何を指しているのかが分かりにくい。大きくは、人・空間・経済の3点の表現の方法が良いのではないかな。

まちづくりの目標については、「子ども政策：楽しむ心がのびのびと育つまち」は、子どもだけでなく、大人も楽しむところが大切で、面白がったり、興味を持つことが大事という意味があり、この案のままで良い。

「活躍政策：自由な個性がつくるまち」は、一人ひとりの個性が発揮される、輝くという想いであるから、「自由な」ではなく「多様な」としてはどうか。また、芸術・文化などのイメージから「多様な個性が創るまち」としてはどうか。“創る”をこの漢字を使「つくる」を「創る」という表現にしたい。性別や市民、市外在住などに関わらず、それぞれの個性を受け入れ、個性が発揮され、まちをつくっていくという想いを込めたい。

「安全・安心政策：みんなで笑顔を守るまち」は、「笑顔」とするのではなく、防災・防犯等の意味を分かりやすく表現するために「みんなでいのちを守るまち」が良い。「みんなで」がポイントで、行政に守ってもらうとか、誰かに守ってもらう

のではなくて、各々が自分の命だけでなく、まわりの人やみんなの命を守っていくというのを表現したい。

「健康福祉政策：すこやかで幸せに生きるまち」は、将来像とあわせて「幸せ」を「しあわせ」としたい。「生きる」は哲学的な話にもなるので、衣食住など、もっと市民の基本的な暮らしを表現したかったので、「すこやかでしあわせに暮らすまち」としたいと思う。体のことだけでなく、心の健康が重要であることも表現したかった。

まちづくりの目標の順位は、優先順位はないと考えていて、それを表現する方法としては、円形に並んでいるような表現にできたらという意見があった。それぞれの分野同士が横のつながり（同じ高さでつながっていく）を大切にしていくことが表現できると良い。

【B グループ】 重要視点については、「新たな時代への投資・挑戦」は、資料中「新しい」または「新たな」と表現している箇所があり、「新たな」の方が良いという意見となった。また、「・」を使って区切るのも語呂が良いので、このままの案としたい。

まちづくりの目標について、各政策の順番を考えた。将来像も「まなび」が最初に来ていたり、重要視点でも、「まちの未来を担う人の育成」が上位にあるので、子ども政策と活躍政策はこのままの案としたい。産業政策にも「人の育成」がかかってくる。産業政策は、今の案では埋もれている印象を受けるので、3番目に位置させて、その後に「安全・安心政策」と「健康福祉政策」が続いていくことにしてはどうか。

その他、「安全・安心政策」「健康福祉政策」は、本来であれば、命・健康に関わる大事なところなので、1番上にするのも良いのではないかという意見もあった。また、Aグループと同様に政策に順番をつけるべきではないという意見もあった。

まちづくりの目標の設定について、「産業政策：産業がつながり活力がうまれるまち」というのを考えた。各産業がつながっていくことで、盛り上がりを相乗効果で上げていくことが大切というところに視点おいた。

「くらしの基盤政策：便利で快適に暮らせるまち」については、このままでいきたい。下に紐づいていく施策のことを考えると、青垣や山南などの遠隔の過疎地域にいる人たちを取り残さないような、くらしの基盤を整えていかねばならない。便利で、みんなが快適に過ごせるというような想いを込めた。

「環境政策：自然と生きる環境にやさしいまち」については、前回は「自然と共生する」という固い言葉を使っていたが、少しやわらかい表現にした。

「行財政政策：先を見据えた効率的運営」については、前回「誠実な行政運営」という意見が上がってたため、「誠実」を読み替えて、「市民に開かれた」として、また、先を見据えた効率的な運営をしていくことも大切だという想いも含めて「市民に開かれた効率的運営のまち」として提案する。

【会 長】 考え方の整理として、縦割りをなくして横のつながりにしていく時代でもあるので、書

きぶりとして、順位が見えてしまうのが良いかどうか、今日の気づきだった。曼荼羅としていくなど、表現の工夫が必要かもしれない。見せ方については事務局で議論していただきたい。

重要視点は、「人づくりの環境」など書きぶりについての意見があった。難しいのは「丹波市らしさ」を考えると、考えに溺れていってしまうことも想定される。「人・空間・経済」とは資源のことだと思うが、一般論でいうところの「人・もの・金・知恵・情報・ネットワーク」を踏まえて丹波らしさなんだろうと思う。こういったところの表現を事務局で検討していただきたい。「人口減少社会への対応・備え」は、同列で並べるのに違和感ということであった。同列で並べるのか、あるいは「重要視点」と表現したタイトルに「前提となる」という表現を足すなどして整理していく方法もある。今一度、事務局側で検討してもらいたい。まちづくりの目標については、主語が省略されていると考えるべきだと思っている。市民が主体であることが主語なしでも伝わるかが大切であることが言いたい。「市民が」「地域が」「市民の」「地域の」が見えない主語となって読めるかどうか、再チェックしたいと思う。

4. その他

第8回丹波市総合計画審議会の開催

日時：令和5年11月28日（火） 午前10時00分から

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

5. 閉会

【副会長】 限られた時間の中で、新しい視点からの意見も出て、より内容の濃い議論ができたと思う。まちづくりの目標の順番はないけどある。見た感じで、イメージが頭にすぐに入ってくることはとても重要なことだと思う。何の説明もなく、見ただけで丹波市がこういう方向性でいくんだということが分かって、ここで住みたいと思わせることができる図が描けたら良いと思う。

以上